

**金曜コラム - 私はスポーツ人権講師だ****金ドンヒョク（スポーツ人権講師、高麗大スポーツ教育学博士課程）**

私は学生選手出身のスポーツ人権教官である。中学 1 年生の時までサッカーをした。しかし、三十になるまでも、学生選手時代に私が人権侵害を受けたという事実を知ることができなかった。国家人権委員会のスポーツ人権分野の講師養成課程の教育を受けてから分かるようになった。

コーチから「パタ」（現場で使う用語をそのまま使用）を受け、蹴られ、頬を打たれ、悪口を言われる事、サッカー選手になるために耐えなければならない当然のプロセスだと思っていた事は、当然のことではないことを知らされた。それは人権侵害であり、その事実さえ知らなかったことも無気力に学習させられてきたということだ。運動をする後輩たちに再びこの痛みが生じないことを願いながら、2014 年からスポーツ人権教育の講義をしてきた。しかし、この過程で小さくて大きな障壁にぶつかることがあった。

まず、教育方式である。少なくて 200 人、多くて 1500 人もの大規模な人員を対象に講義をしなければならなかった。まるで予備軍 1 日目の精神教育の形態と同じだった。200~300 人と人員が多いから、後ろに座っている学生は講義に集中できず、眠るか他の行動をした。種目もそれぞれ異なり団体種目の学生に合宿の話をする、個人種目の学生は「何の話をしているのですか？」と理解していない様子だった。参加人数が人権教育事業の成果として数値化されるという話を担当者から聞いたことがある。人権教育の意味と目的についての理解がないだけでなく、人権教育でさえも学生選手を教育主体ではなく、彼らの実績対象として見るという現実には胸を痛めた。

第二に、教育内容である。大韓スケート競技連盟の指導者を対象に教育を行った時だ。指導者の処遇改善のために労働権をテーマに教育をした。教育を終えて大韓体育会人権担当者から連絡を受けた。「約束していた次の講義の日程が取り消しになりました。」理由を尋ねた。帰ってきた答えは、「機関の長が不快なテーマだった」ということだ。“人権は不快感から始まるものだと学んだのだが・・・”これだけではない。学生選手を対象にスポーツ人権教育をする際にも、必ず「暴力と性暴力」をテーマに扱わなければならなかった。大韓体育会の担当者によると、毎年暴力と性暴力申告が多いからだと言った。私はこの話を聞いたたびに疑問を感じた。「この教育は人権教育なのか、(性)暴力予防教育なのか」

第三に、講師資格である。大韓体育会では年末に全国 17 の市道体育会スポーツ人権講師 100 人余りが参加するワークショップを運営する。補修教育という名目の下に集まるが、その教育の質が人権的に担保されたかどうかを誰も断言するのは難しい。ある日、小グループ討議をした時だった。ある人権講師に、このような話を聞いた。「私も選手生活をしたが、最終的には運動する子供たちは叩いてこそ実力が上がった。」瞬間、私の耳を疑った。まさに衝撃的であり、他にもないスポーツ人権をテーマに集まったワークショップの場で、しかも現職のスポーツ人権講師から聞いた告白だ。大韓体育会スポーツ人権講師の専門性を疑わざるを得なかった。これだけでなく、実際の現場では人権教育と人格教育を混乱して講義する講師の先生の話も度々聞いた。スポーツ人権講師が人権の意味と価値を身に着けたのかのチェックが必要である。

趙ジェボム事件をきっかけに、スポーツ人権教育の実効性について批判の声がある。成果と制度による教

育ではなく、人権の真正性ある教育が行われる必要がある。現場の人権講師の声を通して教育の内容と方法を継続的に検討し、法制定を通じてスポーツ人権教育を義務化し、ガバナンスを構築してスポーツ人権教育をより良い方向に発展させなければならない。

人権教育は学生選手や指導者だけでなく、スポーツ政策を扱う担当者と役員まで全てが必要である。文化体育観光部と大韓体育会、17の市道体育会などのスポーツ界の国家機関と言える主要な政策担当機関で人権を理解できず、また理解しても政策に反映する方法を知らなければ、政策は人権保護と向上を担保できない形式的一方的なもので、また繰り返しになりやすい。これから大韓民国スポーツは人権を最優先の価値に置いて、人権が中心になることができる構造を用意しなければならない。オリンピック憲章の基本原則第4条の規定により「スポーツは人権」だからだ。

\*今日のコラムは去る1月21日ハンギョレ新聞「何故なら」に掲載された記事です。著者の許諾を受けて本日金曜コラムに載せました。

## 01 ニュース 1 2019.01.22

### 【 市民団体、大韓体育会また糾弾 “自己改革中断せよ” 】

市民団体が声明を通じて再び大韓体育会を糾弾し、李ギフン会長の罷免を要求した。文化連帯、スポーツ文化研究所、体育市民連帯は22日、「大韓体育会の自己改革を糾弾する」というタイトルの声明書を共同で出しました。

「大韓体育会は改革の対象であって主体ではない」というのが声明の趣旨だ。李ギフン会長と役員の前任要求も声明書に入っている主な内容です。

市民団体は21日、大韓体育会が革新委員会を発足させたのとスケート連盟の会員団体除名に言及したことに怒っている。まず、声明は「大韓体育会は、もはや常識的的正常組織ではない事が天下に明らかになった。改革の対象の体育会がどうして改革を主導する技術革新委員会を運営すると言うのか」と革新委発足を非難しました。

続いて「スケート連盟除名の言及は脅しと圧力を超え、脅迫に近い。会員団体の管理監督と選手の保護が大韓体育会の存在の理由であり、最優先の任務」だとし、「自分の過ちを再び下部組織に押し付ける悪い癖を再び繰り返しているのでは」と、スケート連盟を除名できるという体育会の立場を指摘しました。

ジョン・ミョンギョ前大韓スケート連盟副会長の記者会見で李ギフン会長の嘘がばれたという内容も声明に含まれました。シム・ソクヒ側は暴行加害者である趙ジェボムコーチを復帰させやるという李ギフン会長の言葉に大きな衝撃を受けたと打ち明けたことがある。李ギフン会長はこのようなシム・ソクヒ側の主張を強く否定してきました。

しかしジョン・ミョンギョ元副会長は21日の記者会見で、李ギフン会長と一緒にシム・ソクヒに会ったことがありシム・ソクヒ側が主張した内容と同様の発言を李ギフン会長がしたと証言しました。もしジョン・ミョンギョ元副会長の言葉が事実なら李ギフン会長の言葉は嘘になります。

声明は、「改革の対象が改革をすると出てくる非常識、自分の位相と地位を利用して選手と団体を脅迫する利己的な卑怯さ。組織や団体の長がためらわずに強行する嘘、この三つのニュースが一日で伝えられました。すべて大韓体育会で起きた事です。嘆かわしいことだ」とし、最後に李ギフン会長と役員の前任を要

求しました。

\*出典：<http://news1.kr/articles/?3530516>

## 02 韓国日報 2019. 1. 22

### 【 人権委、体育界の性暴力 大々的な実態調査に着手 】

国家人権委員会が最近相次いで起きたスポーツ界の性暴力問題についての特別調査団を設け、大々的な実態調査を行うことになりました。全種目を対象として行い、最近特に問題とされたスケートと柔道は全数調査を行うことにしました。人権委の調査の規模としては歴代最大ですが10年前にも実態調査の末に勧告案まで出したことに照らしてみると、実効性を担保することができないという指摘が出ています。

崔ヨンエ人権委員長は22日、ソウル中区人権委で記者会見を開き、スポーツ界の人権実態調査計画を発表しました。崔委員長は「体育界の暴力・性暴力問題の深刻さはこれ以上看過できない状況」とし「今回こそは根本対策を作る」と述べた。スポーツ分野の暴力と性暴力が一回だけ・偶発的な問題ではなく、構造化されたシステムの中で継続的に発生する、引き継がれてきた現象というのが人権委の判断です。

これにより、人権委は来週中に30人規模の「特別調査団」を構成する方針です。調査団には人権委調査役だけでなく、教育、文化体育観光部、女性家族部の公務員が合流します。調査団はスポーツ界の性暴力の問題を扱うための政府レベルのコントロールタワーの役割を担って1~2年の企画調査を行った後、スポーツ界の性暴力の実態を分析し総合対策をします。人権委は調査団の発足とともに被害状況受付窓口を作って被害事例を受け付けて被害事実が確認されれば捜査依頼など救済手続きを踏む予定です。

調査団の実態調査は、全登録選手13万人の一部について標本調査を進め、スケート、柔道など問題になった種目は全数調査する方式で進行されます。国家代表訓練院を含めて、各学校運動部の合宿施設にも調査団が直接訪問して点検する予定です。事実上の実業チームを除くほぼすべてのスポーツ関連機関が調査団の点検対象となるというのが人権委の説明です。崔委員長は「被害と加害の実態を正確に明らかにした後、根本的な対策を用意するのが調査団の中核課題」とし「職権調査を含めて人権委ができるすべての調査方式を動員して実態把握をする」と言いました。

しかし、今回の措置でスポーツ界において構造化された性暴行問題を完全に解決することができるかは未知数です。10年前にスポーツ界の性暴力問題が浮上したとき、人権委が実態調査を通じて「スポーツ人権ガイドライン」を作成しスポーツ界に強力に勧告するなど大騒ぎをしたが実効性がなかったからです。人権委の勧告は法的強制力がないので関連団体がこれに従わなくても処罰する方法がないことも難題です。崔委員長は記者会見で、「当時、勧告を履行したかどうかを適切に監視していなかった人権委にも大きな責任がある」とし「今度は関連省庁と人権委勧告を履行することができるようにする対策を立てて人権委も意志を持って勧告履行するかどうかを監視する」と言いました。

出典：

<http://www.hankookilbo.com/News/Read/201901221301743585?did=NA&dtype=&dtypecode=&prnewsid=>

## 03 ソウル新聞 2019. 1. 24

### 【 ' 泰陵合宿 ' を嫌い飛び出した少女... 米国で勉強・スポーツし弁護士に 】

「行ったことのない道」を選択した前水泳女子代表チャン・ヒジンさん

スポーツ界の「ミートゥー」暴露が相次いで起き、成績が全てだと運営されてきた韓国スポーツ界の古い慣行がまな板に上がりました。代表的積弊に指摘されるのがエリート選手たちの「合宿」の文化です。1960年代以降、「選手村で一緒に食べて寝て、高強度の団体訓練をしてこそ成績を出すことができる」という考えが定着したが、この「揺りかご」のリーダーが選手を暴行し、性的暴行までした疑惑が明らかになったことです。すでに19年前の合宿練習に小さな石を投げた大胆な中学生がいました。前水泳女子代表チャン・ヒジン（33）さんの話です。50m自由形韓国新記録保有者であった彼女は中2の時、2000年のシドニーオリンピックを控えて「泰陵選手村入村を少し先送りしたい」と言いました。「期末試験の勉強をしなければならないから」が理由でした。大人たちは女子中学生の所信を「チャン・ヒジン騒ぎ」と規定した。大韓水泳連盟は、「国を考える犠牲の精神がない」と代表の資格を剥奪しました。これにアン・ミンソク（国会文化体育観光委員長）当時中央大社会体育学部教授などの専門家が彼女を助けに乗り出し、紆余曲折の末、オリンピックに出場することになる。しかし、チャンさんは翌年、米国に向かいました。韓国では水泳と勉強の両方をすることは困難だからでした。以後20年近く経ちました。見方によれば預言者であった彼女はスポーツミートゥーの風をどのように見ているだろうか。米国で弁護士になったという彼女と23日に連絡が取れました。

→2000年のシドニー五輪国家代表から除名された時の状況がどうでしたか。

・最初は理解できませんでした。「選手村で合宿はするから、学校で7時間目の授業まで聴かせてくれ」と言ったが受け入れられないんですよ。「期末試験までだけでも授業を受けられるようにしてほしい」と言ったのにだめなんです。お母さんが「ヒジンああ、もう家に帰ろう」とおっしゃり出たのですが、それを「無断離脱」と言われたんです。「無断離脱とは... 選手村は刑務所か?」と思いました。結局、代表チーム脱落の話聞いてすごく泣きました。

→成績欲がなかったのですか？水泳が本当に好きなら合宿をするものですが。

・簡単に言うと両親と離れたくなかったんです。私は今でも家が好きで、家族と非常に仲良しです。幼い時はそうですね。朝、目が覚めた時に私の両親が隣にいない状況は想像できませんでした。無理にする合宿は嫌いでした。韓国では太極マークを付ければ学校の授業も聞けなく、訓練だけしなければならないでしょう。私は水泳を面白くて始めました。ところが、無理に訓練させて運動を深刻に受け入れたら何の意味があるのでしょうか。水泳を本当に好きですが人生の全てだとは思いません。

（チャンさんにとっては水泳ほどに学業が重要だった。彼女の母は当時、「私たちの娘は代表を目指したのではなく楽しく運動したら成績が良かったもので、突然泰陵（テルン）で1日中合宿しろとなった」と言い「選手村では素質のある選手を連れてきて運動だけにすべてを注ぐようにします。また、もし代表チームから脱落すると水泳以外は何もできない人を作るのではないか」と吐露した。中学生の「反旗」にスポーツ界は騒然となった。アン・ミンソクなど教授200人がチャンさんの意思を支持し、署名運動を行いました。予想外の逆風を受けた水泳連盟は懲戒を撤回した。この時、教授と体育指導者などが主軸になって「体育市民連帯」という国内初の体育市民団体を作ります。この団体の創立スローガンは「勉強する学生選手、運動する一般学生」である。チャンさんはオリンピックが終わった翌年、米国に移ります。）

→アメリカに行った理由は何でしょうか。

・米国留学した父の影響が大きかったです。体育特技生であった父の友人が訓練の後、カバンを背負って

教室に駆けつけてきたそうです。特技生というのは単位管理をおろそかにすることができない雰囲気だったそうです。私の母は高校の音楽教師でしたが行きたい大学に行こうと声楽だけでなく、勉強も非常に熱心にされたそうです。両親を見て、自然に「勉強と水泳両方しっかりしたい」と考えました。しかし、韓国では容易ではないようでした。だから両親に「米国に留学行く」と自ら申し上げたのです。

→直接経験した韓国と米国の最大の違いは何ですか。

・アメリカの高校では「運動のために授業を抜ける」というのがありません。授業出席と試験の成績が運動の記録と同じくらい重要です。米プロバスケットボール（NBA）の伝説マイケル・ジョーダンのような天才であれば話が違うでしょう。しかし、ほとんどの運動選手はそうではありません。エリート選手の隊列からいつでも落伍するでしょう。米国では勉強の割合が85%であれば、運動の割合は15%でした。米国では一日1時間30分、週5回だけ練習しましたが記録は韓国のとときと同様でした。短い訓練時間で目標量を達成しようと効率的に練習した結果でしょう。

（チャンさんは米国テキサス州で「フィリップス・アカデミーアンドーバー」（高校）に通って3年間、米東部高校連合最優秀選手（MVP）に輝き、地域ジャーナリストボストン・グローブが選定した「今年の水泳選手」になった。2005年には水泳特技生4年の奨学金を受け名門テキサス大学オースティン校に入学し、2008年には故郷に錦を飾って北京五輪韓国代表として出場した。彼女は2011年の全国体育大会を最後に翌年引退した。「今の水泳の実力は近所のおばさんレベル」と冗談を言った彼女は、2017年からテキサス州で弁護士として働いている。）

→なぜロースクールに行ったのですか。

・幼い時に代表チームから追い出されることを経験していろいろ考えが多くなりました。「政府はどのような機能をすべき？」、「法はどのような役割をすべき？」のような関心が生じたんです。外交学の修士号を取った後にロースクールに行き、法律事務所で働きながら家庭裁判所の事件を主に担当しています。選手の経験が裁判をするときにも役に立ちます。水泳と裁判の両方とも執拗さが重要なんです。運動選手たちは「適当にしくちゃ」という考えを絶対にしません。

→韓国スポーツ界の不条理な慣行は、どこから始まったと見ていますか。

・素質のある子供を子供の頃から運動しか知らない人に育てるのです。隔離された村で一日中訓練して疲れて、他の事を習得したり考えることができるのでしょうか？米国では体育特技生であっても運動が終わったらみんな宿題しに図書館に行くのが日常です。水泳する時は水泳だけ、勉強の時は勉強だけを考えるのが癖になりましたよ。もちろん試合で良い結果を得てメダルを取るのは重要です。しかし、あまりにも成績に埋没してしまうと選手の後の人生を考える暇がありません。

→体育界のミートゥー暴露をどのように見ますか。

・本当に残念な気持ちが大いだが、問題提起は肯定的だと見ます。修正の機会ですからね。米国では映画界をはじめとして「ミートゥー」暴露が出たんです。スポーツ界だけでなく力と権力の差が存在する社会のすべての場所で起こりうる問題だと見てください。隠して覆うのではなく問題を解くことができるよう皆が一緒に関心を持たなければなりません。

→スポーツ選手の中には「自分は今まで運動しかしなかったのに勉強なんかできるか」と思っている人もいます。

・生活の中で何かをするのに遅い時はないと思います。米国法律大の仲間の中で父親の年の人もいまし

た。別の仕事をしてから遅れて入学したんです。私はアメリカの法律事務所の面接を受けたときに水泳国家代表出身というのが強みになりました。「運動をずっとしたので熱心にする事が何なのかを知っている人」と評価されたのです。

→これから何をしたいですか。

・ いつかは韓国に行って選手たちのために仕事をしたいです。金メダルを取れなくても熱心にする選手の中に暴力・性暴力被害を受けた人々がどれだけ多いか。選手たちの権利も見てあげたい。運動だけしていると自分の権利をよく知らない事が多いです。私が知らせてあげたいです。「さあ、これは君の餅だ」って。

キム・ジョンファ 記者 clean@seoul.co.kr

出典：

[http://www.seoul.co.kr/news/newsView.phpid=20190124005004&wlog\\_tag3=naver#csidx081d501ac54011580e62af9603f4e54](http://www.seoul.co.kr/news/newsView.phpid=20190124005004&wlog_tag3=naver#csidx081d501ac54011580e62af9603f4e54)

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jrlfep@gmail.com